麦管理情報 Ｎｏ３

穂揃い期追肥と赤かび病防除について

令和６年４月１日
ＪＡたがわ
田川普及指導センター

○ 生育概況

今冬は、寒暖はあったものの全体としては気温が高く推移したため、１１月２０日頃に播種されたチクゴイズミは、昨年より２日早い３月３０日が出穂期になりました。１１月２０日頃に播種された大麦は、昨年と同様の３月２４日が出穂期となりました。また、定期的な降雨があり、管理が十分にできず、一部ほ場では湿害による下葉の黄化が見られます。

赤かび病防除の準備を早めにして、適期防除に努めましょう。

1. 赤かび病防除（小麦・大麦）

＜防除時期＞

・小麦：１回目：開花期～開花最盛期（目安：出穂期※後７～１０日）
　　２回目：１回目の７～１０日後

・大麦：１回目：葯殻抽出期（目安：出穂期※後１２～１５日頃）
　　２回目：１回目の７～１０日後

※ 出穂期とは全茎数の４～５割が出穂（葉鞘から穂の先端(芒は含まない)が現れる）した時。

ちくしＷ２号とはるか二条は特に赤かび病が
発生しやすい品種です。
適期の２回防除を徹底しましょう。

○使用薬剤：薬剤、麦種により使用可能な回数、収穫前日数が異なるので注意
※トップジンMは大麦では出穂期以降、１回しか使用できません

＜赤かび防除＞　　薬剤、麦種により使用可能な回数、収穫前日数が異なるので注意

薬剤名	希釈倍率	散布量/10a	小麦		大麦	
			出穂後回数	収穫前日数	出穂後回数	収穫前日数
トップジンM水和剤	1,000～1,500倍	60～150ℓ	2回まで	14日前まで	1回まで	30日前まで
					※1回目の防除でしか使用できない	
トップジンM粉剤DL	－	4kg	2回まで	14日前まで	1回まで	14日前まで
シルバキュアフロアブル	2,000倍	60～150ℓ	2回まで	7日前まで	2回まで	14日前まで

※希釈倍率　1,000倍・・・水100ℓに100g(ml)　　2,000倍・・・水100ℓに50g(ml)

2. 穂揃い期追肥（小麦）

タンパク質含有率を上げるために、穂揃い期追肥を行いましょう。**時期が異なると十分な効果が得られません。**タンパク質含有率はチクゴイズミが基準値９．７％以上、ちくしW2号が基準値１１．５％以上です。

＜施用時期及び施用量＞

	1回目	2回目
品種	穂揃い期（出穂後2～4日）～穂揃い期後7日間	1回目の7～10日後
チクゴイズミ	硫安を10kg/10a株元施用 または 尿素5kg/10aを防除薬剤（100～150ℓ）に加用して葉面散布	―
ちくしW2号	硫安を25kg/10a株元施用 または 尿素5kg/10aを防除薬剤（100～150ℓ）に加用して葉面散布	尿素5kg/10aを防除薬剤（100～150ℓ）に加用して葉面散布

※　ちくしＷ２号の葉面散布は**１回に５kg/１０aより多く散布すると葉焼けします。２回の赤かび病防除の際に、それぞれ５kg/１０aずつ散布しましょう。**

無人ヘリ、ドローンで赤かび病防除を行う場合、穂揃い期にブロードキャスタか動散による硫安の株元施用をしましょう。

＜赤かび防除と穂揃い期追肥の組み合わせ事例＞

品種	機械	薬剤	希釈倍率	散布量　/10a	1回目肥料	2回目
チクゴイズミ	ﾌﾞｰﾑｽﾌﾟﾚﾔ 又は 動噴	トップジンM水和剤	1,000～1,500倍	60～150ℓ	尿素5kgを防除薬液に加用して葉面散布	―
		シルバキュアフロアブル	2,000倍			
	動散	トップジンM粉剤DL	―	4kg	硫安を10kg／10a株元施用	―
	ドローン 又は 無人ヘリ	シルバキュアフロアブル	16倍	0.8ℓ		
ちくしW 2号	ﾌﾞｰﾑｽﾌﾟﾚﾔ 又は 動噴	トップジンM水和剤	1,000～1,500倍	60～150ℓ	尿素5kgを防除薬液に加用して葉面散布	尿素5kgを防除薬液に加用して葉面散布
		シルバキュアフロアブル	2,000倍			
	動散	トップジンM粉剤DL	―	4kg	硫安を25kg／10a株元施用	―
	ドローン 又は 無人ヘリ	シルバキュアフロアブル	16倍	0.8ℓ		

※　農薬散布時はラベルの確認・使用履歴の記帳・隣作物への飛散防止を心がけましょう